

2014年9月8-10日 光赤外線天文連絡会シンポジウム
国立天文台すばる解析棟大セミナー室

サイエンス検討班 中間報告 概要

吉田道利
広島大学

サイエンス班と班長

- 宇宙論・構造形成 高田昌広
- クェーサー・AGN 松岡良樹
- 初代天体と再電離 大内正巳
- 銀河進化と構造形成 田中賢幸
- 局所銀河・星(星団) 青木和光
- 銀河系・近傍銀河 金田英宏
- 星間物質 左近樹
- 恒星物理・超新星・晩期型星 田中雅臣
- 星(惑星系)形成 高見道弘
- 系外惑星 松尾太郎
- 太陽系 関口朋彦

サイエンス検討班の進め方(案)

- サイエンス検討班のタスク
 - 各サイエンスカテゴリ毎に、2020年代に我が国の光赤外コミュニティが目指すべき主題は何か、を見出し、次にそれに必要な観測手段やその性能要求についてまとめること。
- 進め方(案)
 - まずは、検討班毎に、取り上げるテーマを明らかにして、それぞれの担当を考える。
 - これはつまり検討班が担当する検討報告書の章／節の第一次原稿の執筆の準備。
 - 班長は班員への割り振りを(編集委員会と相談しつつ)行う。班員は、担当したテーマについて、必要な観測手段やそれに対する性能要求も考えてみる。
 - 必要な観測手段・性能要求が現実離れしては話にならないので、スペース・地上検討班と相談しながら進める。

これまでの経緯

- 2013/12/6 第1回編集委員会(世話人会)
- 2014/1/21 第1回編集全体会議
- 2014/3/21 光赤天連総会にて、編集方針/執筆体制の承認
- 2014/5/13 プロジェクトサマリスライドを各班に展開
- 2014/08末まで 各班で活動(個別の検討会やWS開催)、光赤外が目指すべきテーマを抽出する。
- 2014/07/24 第二回全体会議
- 2014/08/11 光赤外スペース将来計画シンポジウム(宇宙研)
- 2014/09/08 – 09/10 光赤天連シンポジウム

現在までの検討状況概要



